立命館大学大学院キャリアパス推進室2021年度学生研究会活動支援制度最終報告

国際関係研究会

メンバー

文学研究科：猪熊　慶祐（代表）
国際関係研究科：半田　あづみ（副代表）
国際関係研究科：北　和樹（途中休学）
元国際関係学部：趙　晟民

研究会は永久に
不滅です！

研究テーマ

国際関係学の思想・理論について研究し、
現代の国際関係に対する洞察力を養う

研究目的

紛争、貧困、環境、人権など、国際社会における諸問題はますます複雑化している。その解決の一助となるべく各メンバーは研究を進めているが、複雑な社会現象を対象に研究を進める際には、多様な領域を連携させて研究を進め、広く視野を持つことが必要である。そこで、政治、経済、法、文化等の国際関係に関する諸学の助けを借りながら、国際関係に関わる思想・哲学ならびに国際関係学への理解を深める。

研究内容

個人研究発表

猪熊：クリスティ・ミンストレルズの笑劇『オセロ』の道化
半田：将来的なリスクへ対応するための政策を有用な政策とするためには—気候変動適応法の日英比較研究—
北：EU・AI法案の4つの特徴
趙：FRBの政策とインフレーション脅威

輪読会

キャス・サンスティーン（2017）
『選択しないという選択: ビッグデータで変わる「自由」のかたち』
勁草書房.

評価

本研究会では、『選択しないという選択』（2017）の輪読を中心に行い、社会における選択の「自由」について議論を行った。国際研究学は学問として学際的学術領域であり社会における「自由」の捉え方も分野により差異が生じるため、研究分野の異なるメンバーで輪読をしたことで様々な視点から議論が活発に行われた。その結果、メンバー各々が多角的な視座を獲得し、「思考の幅」を広げることができた。書籍の選定も内容、難易度共に適切であったといえる。そういった意味で本年度の活動は、一つのディシプリンに統一されることがないことが有益に働いた。研究における理論や方法論以前に大きな概念である自由についての議論は、逆説的に各メンバーが研究を行う上での主たる理論や方法論を探し当てるきっかけとなったといえる。スケジュールの関係で去年に続き読了に至らなかったことは残念である。輪読の目的について、メンバーから新たな示唆を得た。

国際関係学は学問として存在するものの、異なる分野・対象との学術的コミュニケーションはいまだ課題が残るため、相手の持つ知識や理解の度合いを加味しながら、伝える力を養うことができた。最終的に休会に至ったが、期間内に本研究会の醍醐味である個人研究報告を行うところまで活動し、学術的視点を含めた深遠な議論が交わされた。メンバーからの有益な助言はそれぞれの論理性を点検し、多様な視点と触れることでより良い研究成果を見いだすことができたと言える。